

こほといせき

## 小保戸遺跡

(相模原市No.286 遺跡)

調査期間 20070201～20091130

所在地 相模原市緑区小倉

時代

旧石器  
縄文  
古代  
中・近世



作成日:20100427 更新:20110413

### 概要

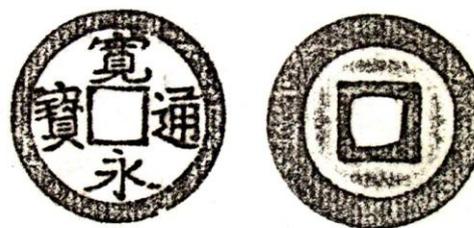
小保戸遺跡の調査は、一般国道 468 号(さがみ縦貫道路)建設事業に伴う相模原市緑区(旧城山町)小倉の埋蔵文化財発掘調査として平成 19 年 2 月から調査を実施しました。遺跡は相模川の上流部、串川との合流地点付近右岸の河岸段丘上に位置し、現地表面の標高は約 130～140mを測ります。本遺跡西側の一段高位の段丘面上には大保戸遺跡、串川を挟んだ対岸には津久井城跡(馬込地区)が位置しています。全体で約 15,000 m<sup>2</sup>の調査を行い、中・近世、古代、縄文時代、旧石器時代と幅広い時代の遺構と遺物が確認されました。小保戸遺跡の発掘調査は平成 21 年 11 月末に終了し、現在は報告書を作成するための整理作業を実施しています。

小保戸遺跡の調査区南東端には、その昔、常照寺というお寺が建っており(明治 44 年に東光寺(現在の湘南寺)と合併)、常照寺の墓地、また合併後から最近まで旧常照寺境内も墓地として利用されており、これらの墓跡が調査対象域で見つかっています。その数は 300 基を超え、その墓の多くから遺骨とともに六道銭(ろくどうせん)が検出されました。これらは主に「寛永通宝」と呼ばれる江戸時代の通貨でした。

現在、これらの銭についての整理作業も行っています。銭の種類、大きさなどを調べるのと同時に、銭一枚一枚の表面



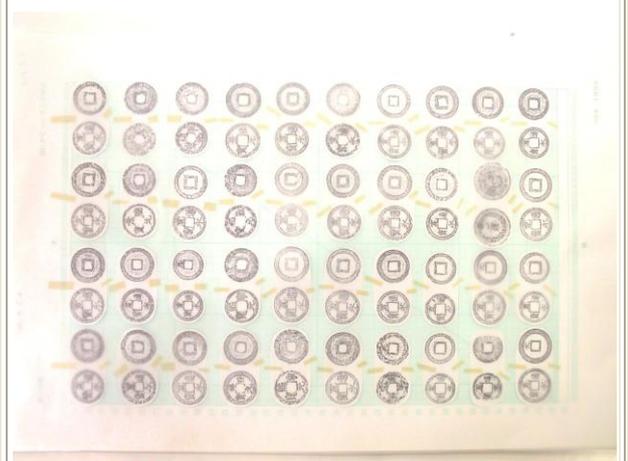
▲ 寛永通宝 (表・裏)



▲ 作成した拓本図

と裏面の拓本取りの作業を行います。拓本を取ることで、肉眼では見えにくい凹凸がくっきりと浮かび上がり、銭の文字や模様が分かりやすくなります。本整理作業では、画仙紙と呼ばれる紙を銭に乗せ、その上からタンポを使って墨を打ち、文字等を浮かび上がらせます。10円玉の上に紙を置いて、鉛筆などで擦ると模様、文字が浮かび上がるのと同じものと考えると分かり易いかも知れません。作成した拓本は、更に細かな銭の鑄造年代などを調べる基礎資料ともなり、これらは、報告書へ成果として掲載します。写真は、報告書掲載用の図版として、拓本図を並べたものです。これが報告書の一つのページとなります。

出土品等整理作業では、今回紹介した作業だけではなく、いろいろな作業を行っています。出土品だけでも、まず洗浄から始まり、注記、接合、復元、拓本、実測、実測図清書、図版組み、原稿執筆などなど、様々な作業を行い、その集大成として報告書が出来上がります。



▲ 仮組みされた拓本図



▲ 六道銭出土状況(矢印先が六道銭)